

この街が好きだから

武蔵野 スケッチ 物語 99

小金井公園にて
(桜堤三丁目)

絵と文 大須賀一雄

見慣れた風景も、
絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが
春夏秋冬で切り取って描きます。



庭先にある小さな梅の木に、かわいらしく花が咲き、家族を楽しませてくれている。

さて、私の家の近辺にはたくさん桜の木がある。シーズンには道が車であふれ、外出すると帰りが大変だった時もある。以前聞いた話だが、戦後すぐの頃は、都内からの桜見物客で武蔵境駅前通りは出店と人で大にぎわいだったそう。そんな桜の木々も近年は古木になり、枝折れなどが起きないかと心配している。

水彩で桜の花の色を出すのは難しい。暖かい冬の時と寒い冬の時は、花の濃さが違う。寒い時のほうが濃い。JR東日本の絵の仕事を多くしていたので、東北・北関東のたくさんの方を訪ねた。弘前公園や宮城県の一部千本桜は特に印象に残っている。それぞれの場所にそれぞれの趣や良さがあると思うが、私はやはり長年暮らした地元の桜が好きだ。玉川上水、五日市街道沿い、武蔵野市役所へ続く道など。この原稿を書いているのはまだ冬だが、今年の桜も楽しみだ。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。